東京2020 聖火リレー つなぐ

第1日（7月2日） 海ほたる～蓮沼海浜公園第2駐車場

サーフ文化 本格輸入

今回から五輪種目になったサーフィンの文化を本場米国から持ち帰り普及させた草分けの人。障害者サーフィン大会を主催するなど裾野を広げる活動もしている。

21歳の時に全土を放浪した。家業のネクタイ製造の視察も兼ねてはいたが行き着いたのは西海岸だった。「誰もがネクタイの代わりにサーフ板を脇に抱え街を歩いていた」。初めて見たサーフィン文化は「日本でも広まるだろう」と直感。

日本障害者サーフィン協会代表理事
阿出川 輝雄さん

サーフ板の本格的な生産システムを学んで帰国し、実家の隅で大きな工房を始めた。

サーフィンの楽しさを伝えようとしていたいすみ市に45年間に移住、板の生産と並行して大会などを開き裾野人口の拡大にも尽くした。

16年前、脳出血で右半身が不自由になり障害者スポーツに関心を持ったが、当時は競技団体もなかった。そこで世界を目指す選手の窓口として協会を設立、2018年に同市内で大会初開催した。

「自分は最初に波に乗った日本人。種目採用を母国で見られ感慨深い」。前回の東京五輪は米国でテレビ観戦したので「今回こそ実際に参加したくてリレーに応募した。本番は絶対に完走したい」と熱く語った。

地元開催へ選手でも

五輪初のサーフィン種目会場となる「釣ヶ崎海岸近くで生まれ育ち、小学1年生からサーフボードを抱えて地元の海に親しんできた。東京五輪の強化指定選手に選ばれ一ぜひ出場したい」と目を輝かせる。

サーフショップを営む同親の元に生まれ、中学年の夏にサーフィンに挑戦した。波に乗る新鮮な感覚に魅了され「やみつきになった」。

学校に通う日は朝と晩、休日は昼間も海に入り腕を磨いた。町内はサーフィンが盛んで、特に同海岸はコンスタントにいい波が来るほか、上級サーフファーが集まる『道場』として知られ、技術を習得する好環境がそろっていた。

これまで各大会で好成績を挙げ、2017年から強化指定選手に選ばれている。今年の全日本選手権では自己ベストの3位に輝いた。「頂点を取れず悔しかった。もっとうまくできたはずと思ったから」。

聖火ランナーは「地元が初のサーフィン会場に選ばれ、当選の連絡に『うれしかった』と相好を緩まる。「五輪には選手としても出場し、サーフィンの面白さを伝えられればと考えている」。

サーフィン強化指定選手
軽部 太氣さん

最高齢93歳2度目へ

県選考聖火ランナーの最高齢93歳。「同じような年配者に、元気と勇気を与えることができたら」と意欲。

1964年の前回東京五輪でも聖火ランナーの一人として走り、当時のトーチはケースに入れ自宅で保管する。生涯、陸上を続けた集大成として高みを目指してほしい、とする3人孫娘らの願いがかない、再びトーチを手にする。「この喜びは私の宝。頑張りたい」と決意を語る。

県野球連盟常務理事
石井 敏広さん

富津市が聖火リレーのコースになっていることを知ると、「ダメ元でいいからすぐに申し込みたい」という。

「ここで生まれ育ち、近くで聖火リレーが行われるという一生に一度あるかないかのタイミング。選んでくれたことに感謝している。光栄な気持ちでいっぱい」

日本製紙青津製紙所に勤務する傍ら、一貫して野球に携わってきた。高校卒業後、新日鉄釜石市（現在の「かずさマジック」）に入部、投手、野手として活躍し、キャプテンも務めた。さらに選手から監督、球連盟常務理事に。

「子どもの頃からつきあってきた野球を社会人になっても続け、連盟で野球振興や青少年育成に尽くした。選ばれたのは、自分がやってきたことが評価されたからだと思う。スポーツへの思いは人一倍強く、五輪が東京で開催されるのも気になっていた。今回、野球も復活する。悲願の金メダルを」と期待する。

だが、また低迷でみんなが手を振る姿が想像できないという。

「責任は重く、自分も楽しみたいけれど、盛り上げるために何かしらアピールしたいですね」

憧れ舞台携われたら

陸上女子100㍍ハードルで、2006、07年の日本選手権を制し、07年世界陸上大阪に出場。08年の北京五輪は最大の目標だった。代表をかけた日本選手権で標準記録を切り、1位になれば決まる。しかし本調子をトップ選手に手応えを感じながら、決勝は体調を崩して3位。「2位もビリも同じ。五輪に出られなかったことがすべて」。

いすみ市旧国吉町出身で、大多喜高校から大学、実業団に進んだ。世界陸上に出た時は、地元岬町で後援会が立ち上がり、熱烈な応援を送ってくれたことに「感謝が身に、いつまでもいたい」と感じた。それだけに「正直言って、五輪への思いは複雑」と話す。

14年の国体を最後に一線を退き帰郷。今年4月からボランティアで地元の小中学生にハードルを教えている。指導しているうちに、自身も現役の感覚を思い出し、「また運くなるのが楽しい」という。

「五輪はなかなか憧れの舞台。何が携われるのかな、一度ふるさとに帰ってもらえればうれしい。一緒に走っている子どもたちが、どう感じてくれるかも楽しみ」と笑顔を見せた。

故郷でハードル指導
石野 真美さん

第3日（7月4日） シンボルロード交流広場～～松戸中央公園

地域に寄り添い治療

浦安市で、心身の病みの解決を図るメンタルクリニックや在宅ホスピスを行う診療所を開業し四半世紀。地域密着で心の通った医療を信念に、千人を超える終末期の患者をみとった。大役の決定に驚きつつも「素直にうれしい」と喜ぶ。

東京都出身。順天堂大学医学部を卒業した縁もあり、同市で開業。「大好きな家族に囲まれて暮らせるように」との思いで、当時は珍しかった在宅ホスピスに力をそそいだ。どこに出掛ける時も患者から携帯電話をひっきりなしに連絡が対応。地域に寄り添った医療を続けている。

会長を務めた同市医師会では、在宅ケア支援の官民合同の仕組みを作り上げた。「常にあるのは患者中心の医療」。在宅でみとった患者から「最後の友達になってくれてありがとう」という手紙を送られたことも。患者のために奔走する日々にやりがいを感じる。

1964年の東京五輪の時は小学生。親と一緒に国立競技場近くで聖火を目にした。「赤い炎の輝きが今でも印象に残っている」。だから患者の中には、来年の東京五輪を楽しみにしていた方もいる。その人の思いを背負い、一歩一歩思いを込めて走りたい」

小林クリニック院長
小林 澄子さん

世界のトップ目指す

全国小学生フェンシング選手権大会で3・4年生の部1位、5・6年生の部2位と優秀な成績を収めた。「国外の関係者も『プレースタイルが自由で遊び心満載』と才能を認める。

映画「スター・ウォーズ」やチャンバラごっこが好き。父、健一さん（44）の勧めで小学2年時に競技を始めた。

腕が上がり楽しくなってきた4年時から海外の競技会に参加、5年時にフランスの大会で優勝を果たし、ドイツの大会に日本フェンシング協会から代表選手として派遣された。大会の合間に多くの男女から『サインを求められたという。

東京五輪では開会式のテレビ観賞を楽しみにしている。「リオ大会のパフォーマンスがすごかった。『東京がどうなるのか』興味がある」。開会式の聖火台へと受け継ぐランナーの役割は「緊張するけど楽しみ」。

好きなスポーツ選手はバドミントンの桃田賢斗選手やサッカーのメッシ選手ら。「ずっと1位だからすごい」。自身も「世界ランク1位」が目標だ。「協会長の太田雅貴選手より上に行きたい」と意気込む。「世界のトップを勝ち続けられる選手になりたい」

フェンシング・全国2位
田中 拓進さん

第2日（7月3日） 銚子ポートタワー～幕張メッセ駐車場

威風堂々と走りたい

香取市佐原の坂本医院の院長で、香取郡市医師会の会長も務める。1987年の開業以来、地域医療の発展に寄与している。地元を走る聖火ランナーとして、「責任重大。選ばれたからには失礼のないように感風堂々と走りたい」と意気込んでいる。

前回1964年の東京五輪の時は中学生で、テレビで見ていただけだった聖火リレー。今度は自分自身がトーチを掲る大役を任されることになった。

坂本医院院長
坂本 文夫さん

走るの「めちゃ」速い

「応援してくれる人たちの元に、一生懸命頑張ります」

芝山町立芝山小学校卒業後、ダウン症により中学から県立東金特別支援学校で寄宿生活をし、児童・生徒が主体となって障害者スポーツの広報活動を行う「オリ・パラ推進隊」に所属、校内だけでなく地域のスポーツイベントにも参加し、子どもたちに障害者スポーツ・ボッチャ」の楽しさや魅力を伝える活動をしている。

県立東金特別支援学校
木川 武蔵さん

バスケットボールが得意で、国語と数学が大好きという文武両道。お金の計算も得意で、将来の夢をレジを使うた仕事いうが「走るのはめちゃめちゃ速いです」と胸を張る。

同校の古川文教諭37も「恥ずかしがり屋だが、本番はバシッと決めてくれると思う」と太鼓判。「パラリンピックをはじめ、五輪の聖火リレーを障害のある生徒がやるというのはうれしい。共生社会への『つなぐ』メッセージになる」と期待する。

小学校時代の同級生も応援してくれる本番に向け、「聖火ランナー決定の連絡をもらってからはトチを持って走る練習を重ねている。『芝山の人たちに聖火を見せたい』と意気込む。

プロのラン披露する

佐倉を拠点に活動を開始する「NPO法人ニッポンランナーズ」の理事長。聖火を運ぶ大役に選ばれ、「五輪に関われて光栄。多くの人によって引き継がれる聖火を運ぶのは責任も生まれるが、わくわくする気持ちの方が大きい」と笑みがこぼれる。

クラブ設立は18年前。コーチとして選手指導を担った強豪クラブの休部に伴い、当時の監督で、マラソン解説でおなじみの金哲彦さんと「地域に根差したスポーツクラブを」と立ち上げた。「高齢者向けの健康体操や子どもの走り方教室などもやっている。地域のクラブとして、地道に根を下ろして活動してきたことが認められたのかな」。走りの「プロ」として恥ずかしくないランニングを披露するつもりだ。

NPO法人
ニッポンランナーズ理事長
齊藤 太郎さん

24年パリ出場目指す

アーチェリーを始めてわずか一年ほどでナショナル強化選手に選抜された若きエース。2024年のパリ大会出場を目指す傍ら、聖火トーチを自分の手で持ち、五輪の力を肌で感じたい と走者に応募し見事、大役を射止めた。

競技との出会いは、小学5年生の時に所属先で楽しんだアーチェリー体験。「いろいろなスポーツをやってきたけど、今までにない快感を感じた」とのめり込んだ。

頭角はすぐに現れ、各地のジュニア大会で優勝、銀銅の拠点は、市原市の自宅近くに祖父母たちが作ってくれた練習場で、放課後を中心に毎日2～3時間、矢を射続ける。

「中学2年生ながら、来春には『アーチェリー強豪国』の台湾に留学する。さらなる成長に向け、猛烈たちと切磋琢磨する挑戦の道を選んだ。『パリ五輪で金メダルを取り、応援してくれるおじいちゃんやおばあちゃんにメダルを掛けてあげたい』と目を輝かせる。

来年の聖火リレーは、五輪を身近に感じられる絶好の機会。自分が走ることで、『アーチェリーを多くの人に知ってもらいたい』と、大好きな競技の普及を願っている。

アーチェリー強化選手
森 みみさん

メダルケースが縁に

東京五輪・パラリンピックのメダルケースのデザインを手掛けた。戦前の五輪にマラソン選手として出場した三浦弥平は母方の親戚になるという「五輪とは縁があると思わずにはいられない」とほにかむ。

福島県出身。23歳で当時勤務していた自動車整備工場を退職し、専門学校で家具の設計といった専門知識を身に付けた。現在は小学3年の時から暮らす八千代市で、プロダクトデザイナーとして活動する。

8月に聖火ランナーの募集が始まったことを知り、すぐに応募。五輪には「いろんな職種の人が関わっているということを知ってもらうきっかけになればとの思いだった。

木目を生かしながら鮮色を使い日本らしさを表現したメダルケースは、5400個全てが手作りだ。制作に携わった多くの人の思いが込められており「リレーを走ることケースのことを知ってもらいたい」と期待を込める。

五輪には選手や演出などで選手以外にも多くの人が関わっている事も伝えたいと思っている。聖火ランナーを無事に務めた後は「メダルとケースを手に笑顔を見せる国内アスリートを見たい」。

プロダクトデザイナー
吉田 真也さん

五輪聖火ランナーとゆかりの市町村（県選考分） 敬称略、年齢・学年は走行予定日時点

第1日（7月2日）

阿出川輝雄	77	いすみ市	日本サーフィン界パイオニアの一人、日本障害者サーフィン協会代表理事
石井 敏広	52	富津市	日本製鉄（株）君津製鉄所勤務（元野球部）、県野球連盟常務理事
石井 更幸	46	袖ケ浦市	アルピノ啓発へ書籍執筆や講演活動、日本医学ジャーナリスト協会賞受賞
石野 真美	37	御宿町など	2007年世界陸上出場（100㍍ハードル）
岩瀬 裕子	49	大多喜町	元ミヤギテレビのアナウンサー、2016・20オリパラ招致委員会スペイン語担当
大矢 信治	61	長生村	小中学生向けサッカークラブを創立、指導
柏崎 克彦	68	勝浦市	国際武道大名誉教授、1980モスクワ五輪幻の代表、81年世界選手権優勝（柔道）
片岡 英夫	56	山武市	道の駅オライはすぬま観光大使、世界遺産マイスター
軽部 太氣	21	一宮町	オリンピック強化指定選手（サーフィン）
神崎 清美	67	長柄町	県商工会女性部連合会会長、町商工会女性部部長
久根崎克美	57	鴨川市	市国際交流協会の元副会長、パリアフリーなどを推進するNPO設立
篠宮 尊	13	鋸南町	中学2年生、2019年全日本ジュニア選手権U13優勝（スカッシュ）
瀧田 礼子	55	匝瑳市	市陸上競技協会理事、障害児童など放課後支援のためのNPO法人設立
田嶋優希奈	16	睦沢町	高校2年生、バスケットボールU16日本代表候補
田村悦智子	68	館山市	1976モントリオール五輪金メダル（バレーボール）、市オリパラ推進本部長
田村 隆文	75	大網白里市	市国際交流協会会長、在住外国人支援のための日本語教室開催
千葉 真子	43	佐倉市など	1996アトランタ五輪出場（1万㍍）、ちばアクアラインマラソンPR大使
鳥海 勲	93	君津市	元県高体連陸上競技連盟副会長、60～88歳までマスターズ陸上大会每年出場
長島 昊大	15	白子町	中学3年生、バスケットボール部部長、県選抜
野口 雅一	67	茂原市	緑ケ丘リレーマラソンを立ち上げ、市を代表するスポーツイベントに育成
古山 政美	66	長南町	町体育協会に30年以上所属、長生郡社会体育功労者表彰受賞
増田 明美	56	いすみ市	市出身、いすみ大使、1984ロス五輪出場（マラソン）
三浦 直登	42	南房総市	酪農家、農業イベントを開催するなど酪農業の普及啓発に尽力
溝口 幸雄	70	九十九里町	町体育協会会長

第2日（7月3日）

荒井のり子	47	銚子市など	1996アトランタ、2000シドニーパラ金メダル（陸上車いす）、県民栄誉賞受賞
板倉 裕幸	50	印西市	市無形民俗文化財の獅子舞の保存・継承活動
岩澤 恵史	22	横芝光町	オリパラ関連イベントを企画する「学生団体おりがみ」スポーツ分野リーダー
木川 武蔵	16	芝山町	特別支援学校で障害者スポーツの広報活動を行う「オリパラ推進隊」に所属
グエン・ティ・マイ	27	千葉市	若者に介護の魅力などをPRする「介護の未来案内人」。ベトナム国籍
久保田 剛	46	富里市	1998長野パラ出場（スキー）
小林美由紀	55	千葉市	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースのマネジャー兼コーチ
小松崎琉暉	15	酒々井町	中学3年生、町唯一の中学校の生徒会長
齊藤 太郎	45	佐倉市	「ランナーズクラブ『ニッポンランナーズ』（NPO法人）を設立、代表理事
坂本 文夫	70	香取市	地域医療を支える内科開業医、伊能忠敬翁顕彰会会長
里見紗李奈	22	八街市	パラバドミントン選手、2019世界選手権（シングルス）優勝
清野涼々花	20	多古町	大学生アスリート（走り幅跳び）、2018U20日本陸上競技選手権大会出場
高橋 邦彦	33	東庄町	元学生アスリート（走り高跳び）、2005年国体少年共通走り高跳び1位
田中 智美	32	成田市	2016リオデジャネイロ五輪出場（マラソン）
辻 義一	47	銚子市	地場産業である水産業に従事
津覇 浩一	53	白井市	障害者などを積極的に採用する経営者 2015内閣総理大臣表彰受賞
戸井 稜	75	旭市	震災記録を展示する市防災資料館館長、津波被害を受けた海岸に花木を植栽
仲田 篤孝	34	成田市	2009箱根駅伝出場、小中学生対象のランニングクラブ運営
中臺 洋	48	市川市	150年以上続く老舗の神輿製造会社経営、神輿職人
弘海 龍矢	15	栄町	高校1年生、2019県中学校卓球大会シングルス優勝
松本 暁子	習志野市		JAXAに勤務する日本人女性唯一のフライトサージャン
御園 政光	43	四街道市	2017全国障害者スポーツ大会1位（1500㍍）、市教育委員会表彰受賞
毛内 颯輝	15	神崎町	中学3年生、野球部主将、香取郡市野球大会優勝
森 みみ	13	市原市	中学2年生、オリンピック強化選手（アーチェリー）
吉田 真也	36	八千代市	東京2020五輪メダルケースをデザインしたプロダクトデザイナー
グループランナー			津波被害があった旭市立飯岡中学校の卒業生と在校生

第3日（7月4日）

京谷 和幸	48	浦安市	車いすバスケ男子日本代表アシスタントコーチ、4大会連続パラリンピック出場
小林 澄子	63	浦安市	25年以上在宅ホスピスを推進する医師、市医師会の元会長
齋藤 向太	14	我孫子市	中学3年生、剣道部部長、生徒会役員
椎名 遥玖	12	柏市	中学1年生、全国少年少女レスリング大会2年連続優勝
田中 拓進	12	松戸市	中学1年生、2017年全国小学生フェンシング選手権大会3・4年生の部1位
鶴見 修治	82	船橋市	1960ローマ、64東京五輪金メダル（体操団体）、船橋市2020招致アドバイザー
ニフユユス・ヨセウス	60	流山市	市内全小学校に「オランダ教室」を実施するなど同国受け入れ機運づくりに尽力
ハッサン・ナワール	16	松戸市	高校1年生、ガーナ国籍、全日本中学校陸上競技選手権200㍍1位など